

再評価項目調書

再評価実施要件		○事業採択後（ 年） ○ 再評価後（ 年） ●その他（ 変化 ）					
1 事業 概要	事業名	都市計画道路 <small>かんじょうちこうせん しんてんこう</small> 環状一号线（新田工区） 街路整備事業					
	事業場所	防府市新田 地内					
	事業主体	山口県					
	事業期間	《 前回評価 平成 30 年時 》 平成 31 年度 ~ 令和 10 年度 《 令和 7 年度 》 （西暦 2019 年度 ~ 西暦 2028 年度 《 西暦 2025 年度 》）					
	総事業費 （内用地補償費）	《 600 百万円 》 1,145 百万円 （ 6 百万円 ）	既投資額 （内用地補償費）	591 百万円 （ 6 百万円 ）	進捗率 （用地補償費）	52 % （ 100 % ）	
	事業目的	<p>本路線は、一般国道2号を起点に防府市街地南側を経て、都市の外郭を形成する環状道路であり、整備が進む重要港湾三田尻中関港や臨海工業団地等へのアクセス道路として、物流ネットワークの一部を担う重要な路線である。また、本路線の一部は、山口県地域防災計画に基づく第一次緊急輸送道路に指定されており、防災上も重要な路線である。</p> <p>しかしながら、本路線の沿線に大規模な工業団地が造成され、企業立地が進んでいるものの当該事業区間は2車線で交通容量が不足し、朝夕を中心に慢性的な交通渋滞が発生しており、円滑な交通に支障をきたしている。また、現道には歩道が整備されておらず、歩行者等が自動車と輻輳するなど、歩行者や自転車利用者は絶えず危険にさらされている。</p> <p>このため、4車線化を行うことにより、交通渋滞の緩和による都市内のアクセス性の向上や交通の円滑化を図るとともに、歩道の新設により、安心・安全な道路交通環境を確保するものである。</p>					
事業内容	<p>○延長：L=0.61km（現道拡幅・4車線化、歩道新設）</p> <p>○幅員：全幅22.0m（車道3.25m×4=13m、歩道2.00m×2=4m、中央帯1.0m）</p> <p>○道路区分：第4種第1級</p> <p>○計画交通量：13,900台/日</p>						
事業効果	<p>○事業区間沿線における大規模な工業団地造成に伴う大型車等の更なる増加に対し、4車線化を行うことにより、都市内交通の円滑化が図られ、日常生活の利便性等の向上が期待される。</p> <p>○歩道の新設により、歩行者及び自転車利用者の安全性向上や沿道生活環境の改善が図られる。</p> <p>○重要港湾三田尻中関港や臨海工業地帯から国道2号へのアクセスが向上し、物流の効率化や地域経済の活性化が図られるとともに、災害時における緊急物資運搬等の確実性が向上し、防災機能の強化が図られる。</p>						
2 再評価の 視点	(1) 社会経済情勢 の変化	社会経済情勢 の変化に伴う 必要性の変化	<p>○全国的な物流ネットワークの機能強化が推進される中、令和3年4月に本路線の一部が重要物流道路<sup>※1</sup>に指定されている。</p> <p>○令和元年度に本路線沿線に工業団地が造成され、新たに企業が進出していること等から、大型車交通量が増加している。</p> <p>○国道2号へのアクセス道路等、周辺道路の整備が進み、道路ネットワークの結節が強化されていることから、当該事業区間の必要性は高い。</p>			中項目 評価	大項目 評価
		関係市町及び 地元の意向	<p>○本路線は、防府市都市計画マスタープラン（2018-2038）において、「周辺都市との連携により都市活動・産業活動を促進する広域幹線交通網」に位置付けられており、拠点との連携強化や沿道型事業所の誘導により、交通の円滑化や輸送力の向上、産業・経済の発展を促すものと位置づけられており、南北の連携や市域の交通体系、臨海部の産業地帯の生産性に大きな影響を与えるため、早期に全線の整備を促進するとされている。</p> <p>○また、防府市立地適正化計画（令和3年4月）においても、「各種施策との相乗効果が期待される重要なネットワーク」と位置づけられており、防府市から継続的に要望がある。</p>			中項目 評価	<p>Ⓐ</p> <p>・</p> <p>Ⓑ</p> <p>・</p> <p>Ⓒ</p>

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	<p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th>前回 (基準年：H30)</th> <th colspan="2">今回(再評価) (基準年：R5)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体事業</th> <th>全体事業</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">便益 (B)</td> <td>①走行時間短縮便益</td> <td>466</td> <td>1,240</td> <td>1,240</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②走行経費減少便益</td> <td>134</td> <td>73</td> <td>73</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③交通事故減少便益</td> <td>5</td> <td>103</td> <td>103</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他の便益</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td>605</td> <td>1,416</td> <td>1,416</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td>452</td> <td>1,023</td> <td>455</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>12</td> <td>17</td> <td>17</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③更新費</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>464</td> <td>1,040</td> <td>472</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益比 (B/C)</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td>3.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p><b>【費用対効果分析手法】</b></p> <p>前回評価：「費用便益分析マニュアル(H30, 2)」 基準年：H30 平成17年度道路交通センサスペース 令和12年推計交通量</p> <p>今回評価：「費用便益分析マニュアル(R4, 2)」 基準年：R5 平成27年度道路交通センサスペース 令和22年推計交通量</p>	区分	主な項目	前回 (基準年：H30)	今回(再評価) (基準年：R5)		備考	全体事業	全体事業	残事業	便益 (B)	①走行時間短縮便益	466	1,240	1,240		②走行経費減少便益	134	73	73		③交通事故減少便益	5	103	103		④その他の便益	0	0	0		総便益	605	1,416	1,416		費用 (C)	①事業費	452	1,023	455		②維持管理費	12	17	17		③更新費	0	0	0		④その他	0	0	0		総費用	464	1,040	472		費用便益比 (B/C)		1.3	1.3	3.0		大項目 評 価  A ・ B ・ C
	区分	主な項目	前回 (基準年：H30)			今回(再評価) (基準年：R5)		備考																																																															
			全体事業	全体事業	残事業																																																																		
	便益 (B)	①走行時間短縮便益	466	1,240	1,240																																																																		
②走行経費減少便益		134	73	73																																																																			
③交通事故減少便益		5	103	103																																																																			
④その他の便益		0	0	0																																																																			
総便益		605	1,416	1,416																																																																			
費用 (C)	①事業費	452	1,023	455																																																																			
	②維持管理費	12	17	17																																																																			
	③更新費	0	0	0																																																																			
	④その他	0	0	0																																																																			
	総費用	464	1,040	472																																																																			
費用便益比 (B/C)		1.3	1.3	3.0																																																																			
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	<p>用地買収は完了しており、令和3年度から工事着手している。 計画的な事業進捗が見込まれることから、引き続き、当該区間の整備を進める。</p> <p><b>【事業費の変化】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 有 無</p> <p>電線共同溝の整備実施、擁壁基礎工の変更により、事業費を増とする。</p> <p><b>【事業期間の変化】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 有 無</p> <p>電線共同溝の整備に伴う電線管理者や沿道事業者との調整、設計検討等に期間を要することから、事業期間を令和10年度まで延伸する。</p>	大項目 評 価  A ・ B ・ C																																																																				
	(4) コスト削減 代替案等の可能性	<p>コスト削減</p> <p>盛土材については、他事業からの流用土を積極的に活用し、また、電線共同溝については、角型多条管等の低コスト工法によりコスト削減を図る。</p> <p>代替案</p> <p>機能面や沿道利用の観点から、既存道路を拡幅する形で都市計画決定(W=22m、4車線)されており、代替案の検討の余地はない。</p>	<table border="1" style="float: right; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="font-size: small;">中項目 評 価</td> <td style="font-size: small;">大項目 評 価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">a · b</td> <td style="text-align: center;">A · B · C</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">中項目 評 価</td> <td style="font-size: small;">大項目 評 価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">a · b</td> <td style="text-align: center;">A · B · C</td> </tr> </table>	中項目 評 価	大項目 評 価	a · b	A · B · C	中項目 評 価	大項目 評 価	a · b	A · B · C																																																												
中項目 評 価	大項目 評 価																																																																						
a · b	A · B · C																																																																						
中項目 評 価	大項目 評 価																																																																						
a · b	A · B · C																																																																						
3 環境	配慮事項	<p>○車道舗装を排水性舗装とすることにより、交通騒音の低減を図る。 ○低騒音・低振動型の建設機械を使用する。 ○擁壁工事に際しては、河川の汚濁防止対策を十分に行う。</p>																																																																					
4 対応方針 (事業実施主体案)	総合評価	● 継続                      ○ 見直し継続                      ○ 中止																																																																					
	評価理由	事業の必要性、整備効果を勘案し、事業を継続する必要がある。																																																																					
	備考																																																																						

**【用語説明】**

※1 重要物流道路：物流の更なる円滑化等を図るため、国土交通大臣が指定した重要な道路。国際海上コンテナ車対応への道路構造の変更や特車許可申請を不要にする等により生産性向上を図っている。

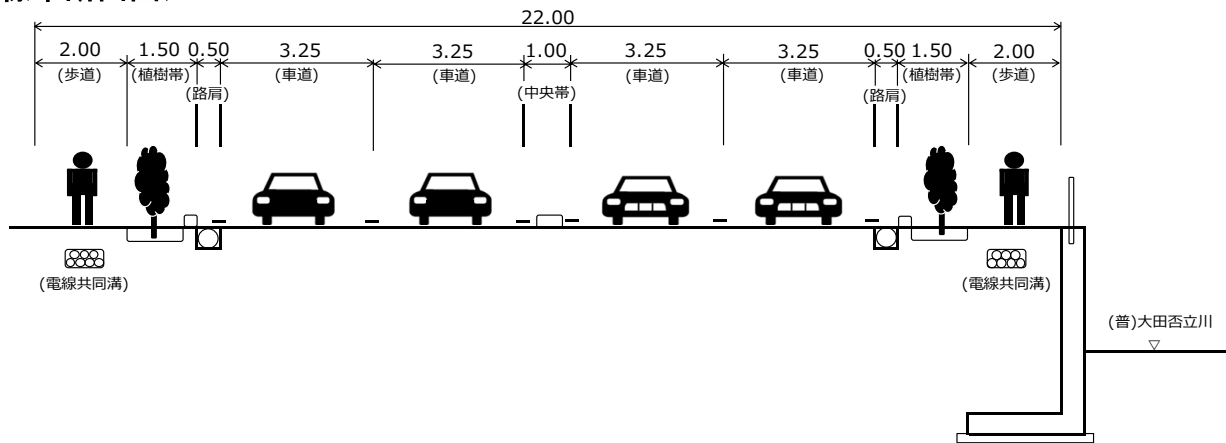
# 都市計画道路環状一号線（新田工区） 街路整備事業

## <位置図>



※この地図は、国土地理院地図（電子国土Web）の一部を掲載したものである。

## <標準断面図>



## <写真>



現道の課題（交通容量の不



現道の課題（歩道未整備）